

平成24年度～平成26年度

# **21世紀型ICT教育の創造モデル事業報告書**

---

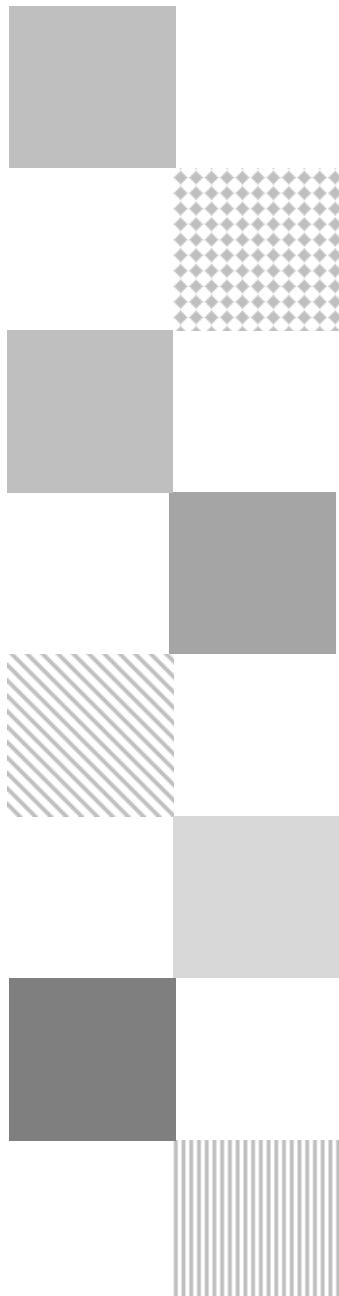
**～学校図書館等のメディアセンター化を中心とした調査研究事業～**

平成27年1月

京都市立西総合支援学校



# 研究企画書・報告書





## 「21世紀型ICT教育の創造モデル事業」希望調書

学校名	京都市立西総合学校
担当者（職名・担当分掌名）	平元 良子（副教頭）
学校図書館とPC室の位置関係	<input type="checkbox"/> 隣接, <input checked="" type="checkbox"/> 同一階, <input type="checkbox"/> 同一校舎, <input type="checkbox"/> 他校舎, <input type="checkbox"/> その他
タブレット型端末PC希望台数 (上限20台)	iPad 20台

1 研究テーマ及び設定理由について（複数の研究テーマ可）	
<p>（1）学校図書館に係る取組に関する研究テーマ</p> <p>図書館に関する情報発信やデジタル図書の活用の推進、授業への協力・支援・資料センターとしての機能の充実</p> <p>（2）自校の実態を踏まえた、ICT環境を活用した教育活動の充実に関する独自の研究テーマ</p> <p>子どもの「できる」を引き出し、夢や希望を育てるメディアセンターとしての図書館活用－図書館にある教材と子ども達が自ら制作・収集した情報とのシームレスな融合－</p>	
<p>2 読書センター、学習・情報センターとして、どのような学校図書館像を描き、その利活用を進めているのか記入してください。また、その現状と改善点について、具体的に記入してください。</p> <p>本校には、書籍には興味を持っているが興味の幅が狭い子どもも、見せ方（聴かせ方）に配慮をする子どもも、図書館に移動してくることが難しい子ども等が在籍している。また、図書館にある教材だけでは十分に理解できず、手づくり教材の提示が必要な場合も多い。一方で、小学部から高等部まで、音や映像の出る書籍は大変人気がある。</p> <p>書籍への興味を広げるため、図書支援員による読み聞かせ、図書委員によるパネルシアター、教員や図書支援員によって録音・録画された読み聞かせ映像の全校放送、書籍とともに手づくり教材の提示等をしている。友達の読み聞かせの録音を聴いて、「私も、読みたい」と言って来る子どもも見受けられるようになってきている。</p>	
<p>3 目指す学校図書館に向け、タブレット型などのPC端末が配備された場合の活用案や、課題解決のための取組案等を記入してください。</p> <p>家庭でほとんどの時間ビデオを見て過ごしていたり、受動的な姿勢の子どもが多く在籍している。ICT機器を活用することによって、図書館にある様々な資料と、手づくり教材や子ども自身が制作したもの等とのシームレスな融合を図り、子どもの「できる」「もっとしたい」という気持ちを引き出し、自らアクションを起こし、主体的に書籍等に親しみ、楽しむことのできる子どもを育てたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>①読み聞かせ教材等をメディアセンターへ保存</li> <li>②子どもが授業で情報を収集、制作している映像等をメディアセンターに保存</li> <li>③書籍の内容を補足する支援方法や手順書等をメディアセンターに保存</li> <li>④子どもが作成した手づくり絵本等をメディアセンターに保存</li> <li>手づくり絵本等をメディアセンターに保存し、子ども同士で共同制作</li> <li>⑤メディアセンターへの保存だけでなく紙文書化し、図書館の書架に配架</li> </ul>	

※添付資料として、上記3を反映した学校図書館活用計画を提出してください。

※A4 3枚以内に記入してください。

**提出期限:平成24年10月19日(金)**

## 学校図書館のメディアセンター化を中心とした調査研究 学校図書館活用計画

- ① 図書支援員や教職員・子どもが作成した読み聞かせ教材等をメディアセンターに保存し、校内のどこでもいつでも見られるようにする。

現在も、教員や図書支援員、図書委員によって録音・録画された読み聞かせ映像の全校放送を毎日、昼休みに実施している。しかし、一週間ごとに読み聞かせの絵本が変わってしまう。そのため、大好きな絵本の読み聞かせの週に病気で休んでしまいその映像を見られなかつたり、大好きな○○さんの読み聞かせをもっと見たいと思っても見ることができなかつたりする。そこで、これらの映像をメディアセンターに保存し、教室内でICT機器を活用していつでも見られるようにしたい。また、端末機器から大型テレビに映すことで先生や友達と一緒にそれらの映像を楽しめるようにしたい。さらには、先生や友達の読み聞かせの音声を聴いて、「自分も読みたい」と主体的に活動しようとする姿勢を引き出したい。



- ② 子どもが授業で情報を収集、制作している「洛西町探検」や「動物園紹介」などの映像をメディアセンターに保存し、図書館にある教材と共に視聴・活用できるようにする。

現在、中学部の授業において、広報ユニットという学習活動に取り組んでいる。居住地域や動物園などに出かけていき、調べたことや取材してきたことを、校内放送で放送したり壁新聞を作成して紹介している。一方で、町探検に関する書籍や動物に関する書籍が大好きな子どもが多く、図書館でもこれらの書籍を読んでいることが多い。広報ユニットの収集してきた情報や制作したものをメディアセンターに保存し、現在、図書館にある書籍等とともに、いつでも活用できるようにしたい。



- ③ 教員の作成している各活動の支援方法や手順書などをメディアセンターに保存し、それらに関する書籍と共に活用できるようにする。

活動の前に、図書館の書籍で調べたり、インターネットで調べて活動することも多くあるが、これらの資料だけでは十分に理解できず、補助教材・資料を教職員が自作することも多い。例えば、調理実習などで、図書館にある料理本でレシピを調べ実習にのぞんでいるが、レシピ本どおりに調理できることは少なく、子どもの実態や課題に応じた調理法（にんじんをたまご切り器で切る等）で調理したり、教職員が手順書を作成して手順書を参考にしながら調理を行っていたりする。

これらの子どもの課題に応じた支援法や手順書などを電子化してメディアセンターに保存し、料理に関する書籍と共に活用できるようにしたい。

現在、本校の様々な学習活動に対して、教材等のデータベース化や共有化をすすめているので、ICT機器を活用してメディアセンター化することで、さらに有効活用できるように取り組んでいきたい。



- ④ 子どもが作成した手づくり絵本等もメディアセンターに保存する。また、メディアセンターに作成途中の手づくり絵本を保存し、子ども同士が協力して一冊の絵本を仕上げる。

書字が課題になっている子どもも多く、様々な機会を設定して書字指導に取り組んでいる。例えば、「かいけつぞろり」が大好きな子どもに対しては、書写したりパソコンでワープロ入力することで、「〇〇君のぞろり本」を作って、ともだちに見せてあげようという学習に取り組んでいる。完成したら、図書館の書架に置くとともに、電子化してメディアセンターに保存し、校内のどこでもいつで誰でも見られるようにしたい。自分の作ったものを、「どこでも、いつでも、みんなに見てもらえる」ということを励みに、子どもの制作活動がより主体的になることを期待している。

- ⑤ 作成した読み聞かせ教材や手づくり絵本等をメディアセンターに保存しておくだけでなく、プリントアウトして紙文書化し、ICT機器で見たものと同じ書籍を手に取り読めるようにする。

計画のほとんどは、電子化によるメディアセンター化であり、書籍と映像や音をICT機器を活用して融合することは、本校の子どもにとってとても有効であると思われる。また本校の子どもにとって、「いつでも、どこでも」これまでの活動を振り返ることができる環境を整えることも大変重要である。しかし、ICT機器を使って受動的に受け取るだけでなく、自分からアクションを起こし、書籍等への興味につながっていくような活用を推進していきたい。例えば、ICT機器で見たものと同じ書籍を提示することで、書籍を実際にめくってみる、読んでみるとことにつながるような取組が必要ではないかと考えている。

平成26年 3月 7日  
学校名 京都市立西総合支援学校  
校長 小林 一義

## 平成25年度「21世紀型ICT教育の創造モデル事業

### ～学校図書館等のメディアセンター化を中心とした調査研究事業～」実施報告書

※平成25年度の研究テーマである学校図書館のメディアセンター化に係る研究を含めて記入すること。

#### 1 研究の内容

本校では、図書教材を、電子教材（画像・映像・音響・アプリなど）や図書の内容を補足する手作り教材も含めて考えている。図書館にある様々な資料と電子教材、手作り教材や子ども自身が制作したものを切れ目なく融合させることで、子どもの「できる」「もっとやってみたい」という気持ちを引き出したい。そのために、図書館がそれらを管理し、活用できるようにメディアセンターとしての役割を果たすことで、自らそれらを活用しようとする子どもを育てることに繋がるのではないかと考えている。

今年度、次の3つを中心に取り組んだ。

- (1) タブレット型端末の活用（調理実習の手順書の活用、サーキットトレーニングの運動ビデオの活用など）
- (2) デジタル図書や教材教具の活用（D A I S Y図書や音声読み上げペンの活用など）
- (3) 図書に親しむ活動（読み聞かせ放送とクイズ、大型絵本作りなど）」

#### 2 研究の成果

少し長めのお話を放送したりクイズを出したり、タブレット型端末を使いやすい環境を整えることで、児童生徒が主体的に図書やタブレット型端末に親しむようになった。

また、指導者にタブレット型端末を使った手順書などの教材の作り方を伝えていくことで、授業を担当するユニットの指導者が自分でタブレット型端末の教材を作れるようになった。図書館の図書を使ったお話遊びなどの授業の様子もタブレット型端末で紹介動画を作り、メディアサーバーに保存した。今後、他の指導者も参考資料として利用できるだろう。

D A I S Y 図書や「音声読み上げペン」などの教材教具も、少しずつではあるが利用できるようになってきている。

#### 3 研究の課題及び次年度へ向けて取り組むべきこと

メディアサーバーには「としょ」という名称のフォルダがあり利用しやすくなっているが、メディアサーバーに保存されたコンテンツを見るためのアプリは、フォルダやファイル概念を理解していないと利用しにくいものしか見つけられていない。今後、タブレット型端末の画面上の画像をタップしたり、QRコードをタブレット型端末で撮影するだけで、コンテンツを簡単に見られるようにしたい。

読み聞かせ絵本も含めて、もっといろいろな教材を作り、メディアサーバーに保存していきたい。

\*公開授業で配布した資料を、別途文書交換メールで送付してください。



ICT事業用iPadにインストールされているアプリ一覧(2013.05.01)

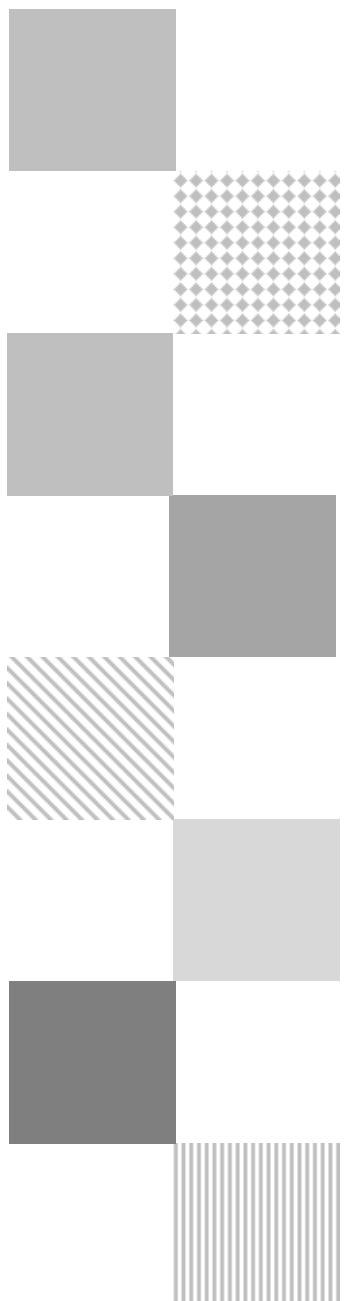
【有料アプリ インストール未】		41 子供数学プラス Free	111 びたっと動物Lite
○ おしゃべりえほん	170	42 i金種計算	112 Vocl Zoo
○ Puffin Web Browser	250	43 がんばれ九九	113 金魚すくい屋
○ 絵カード コミュニケーション	350	44 NHK時計 HD	114 動く！ 動物図鑑
○ 愛・知育 ひらがな	170	45 目覚まし時計+	115 Pocket Pond
○ 愛・知育 カタカナ	170	46 アラーム時計 ドリームセンターFree	116 フラッシュカードライト 動物編
○ 愛・知育 すうじ	170	47 Touch Watch	117 動物カード10
○ 愛・知育 くだもの	170	48 キッズ時計	118 ネコショット
○ 愛・知育 のりもの	170	49 Buggy Kitchen Timer	119 Zoo Sound Free
○ 愛・知育 やさい	170	50 手書きツール	120 ZOOLA 動物 Lite
○ ひらがな なぞり	450	51 簡易時間割	121 Pet the animals
○ ねえ、きいて	250	52 黒板	122 PhotoVoice
○ Lotus(タイマー)	85	53 iPadのための黒板	123 Animals360
○ らくらく絵本 ママといつでも一緒に	85	54 こくばん！	124 できたよ！ かけっこ
△ i文庫HD	800	55 でか文字	125 できたよ！ さかあがり
△ 常用漢字筆順事典	500	56 愛・知育 ひらがな 無料版	126 できたよ！ かけっこ
△ VOD(Voice of Daisy)	2300	57 愛・知育 カタカナ 無料版	127 できたよ！ ボール運動
△ imovie	450	58 愛・知育 すうじ 無料版	128 できたよ！ 跳び箱
鉄道の音Lite	85	59 愛・知育 くだもの 無料版	129 できたよ！ マット運動
動態視力トレ DF Color	85	60 愛・知育 のりもの 無料版	130 できたよ！ 水泳
iCOON	85	61 愛・知育 国旗 無料版	131 Are you Color Blind
Kaleidoprojector	170	62 愛・知育 アルファベット 無料版	132 おやこFit
Splashtop2-Remote Desktop	450	63 愛・知育 メニュー 無料版	133 キネティック動体視力HD
		64 愛・知育 やさい 無料版	134 動体視力測定器
		65 なにタッチLT	135 i視力
		66 いないいないばあ 無料版	136 Optotype
		67 サウンド タッチ lite	137 Noise Level
		68 ワオ！の知育 ワオっち	138 uear
		69 ワオ！の知育 ワオっち いっしょにぼ	139 たまごっちLite
		70 知育プラス	140 はなかっぱ アプリ
		71 キラキラお絵かき	141 しまじろうと やってみよう
		72 音が出るお絵かき	142 ミアのプレイランド
		73 Draw	143 ひらがななぞり LITE
		74 くまぬりえ	144 リラックマtouch!
		75 Doodle Buddy	145 ひめチェン おとぎちっくアイドル
		76 しゃぼん玉 あそび	146 ミアのプレイランド
		77 くるくるキッズ	147 キヨロちゃんアプリ
		78 右脳キッズLite	148 いまカエル
		79 Smart Kids	149 いまここ
		80 Feed me !	150 Yahoo キッズ
		81 Matches	151 乗換案内
		82 Labyrinth2 HD lite	152 友達を探す
		83 都道府県Free	153 I love fireworks lite
		84 Baby Flash Card2 HD Lite	154 voice compass2
		85 サンタクロース クリスマスツリー	155 ハッピーデコレーション
		86 Brain Tutor 3D	156 瞬間日記
		87 tsuzumin	157 smart recorder lite
		88 指ドラム	158 Bento ! Lite
		89 iXylophone Lite	159 自然の音色
		90 Finger Piano Plus	160 映画情報myシアターHD
		91 Baby Chords	161 Yahooあんしんネット
		92 ギター！	162 お誕生日おめでとう ローソクの火を
		93 うたリズムLite	163 PDF Reader Lite
		94 Reflec Beat Plus	164 Monstar mouse
		95 Baby Piano HD Lite	165 Bear coin
		96 琴叩きアヒルちゃんHd lite	166
		97 Vehicles 360	【最初から入っているアプリ】
		98 次、とまります	SideBooks
		99 JR線の駅の音	Snapseed
		100 声でハイパーダイヤ	Google Earth
		101 駅.Locky(カウントダウン型)	Keynote
		102 まるごと路線図	Note Anytime
		103 トミカ ハイパーレスキューLite	WhiteBoard
		104 EX-ALARM	WinZip
		105 eWeather	Epson いPrint
		106 天気+	WebAccess i
		107 気象天気図	SP Navigator
		108 さわる大科学実験	Remote
		109 赤ちゃんパンダ baby Panda lite	ロイロノート
		110 animal fun	





II

# 実践報告





## 21 世紀型 ICT 教育の創造モデル事業にかかる実践 001

### 1. 教科・単元・教材など

「昼休みの図書室開放における iPad の利用

### 2. 学習の流れ

本校では、毎日、昼休みの下記の時間帯に図書室を開放している。この時間帯は、図書室のテーブルの上に iPad を並べておき、子どもたちが自由に iPad を利用できるようにしている。iPad には、絵本アプリ、文字の学習アプリ、数の学習アプリ、言葉の学習アプリ等の無料アプリが 100 種類以上インストールしており、子どもたちは思い思いに iPad を操作して楽しんでいる。

(ICT 事業用 iPad アプリ一覧.xls , iPad アプリ紹介.pptx 参照)



【インターネット検索しています】



【言葉の学習アプリをしています】

- 小学部・・・12時30分～13時20分
- 中学部・・・12時30分～13時
- 高等部・・・12時30分～13時

※昼休みの図書室開放時のiPad利用の様子につきましては、

事前にご連絡をいただければ、いつでも公開させていただきます。

### 3. 実践をした感想

操作方法がわからないで音楽を再生して停止することを何度も繰り返していた子どもが、最後には、画面をスクロールさせて次の画面に進むことができるようになるなど、いろいろなところをタッチすると変わる画面に興味を持ち、とても楽しそうに iPad を触っています。

## 21世紀型 ICT 教育の創造モデル事業にかかる実践 002

## 1. 教科・単元・教材など

## 「メディアセンター化の取組①」

## 2. 学習の流れ

iPad用学習系サーバー(メディアサーバー, NAS)に下記のフォルダを作成し、読み聞かせ絵本の動画、中学部広報ユニットのニュース、教員が作成した指導ビデオ(くつひものむすびかた等)を掲載しており、図書室用iPadや各教室の学習系パソコン・大型TVで見ることができるようしている。



## 3. 実践をした感想

昼休みの図書室開放の際、iPadを利用して好きな「読み聞かせ絵本の動画」を視聴して楽しんでいる子どもの姿が見受けられる。

今後、子どもたちが興味・関心を持っていそうなさまざまな情報（校歌、ダンスビデオなど）を保存し、自由に見られるようにしていく予定。（5月13日の職員会議にて全体に呼びかけ、コンテンツを募集する）

## 21 世紀型 ICT 教育の創造モデル事業にかかる実践 003

### 1. 教科・単元・教材など 「文字の学習」

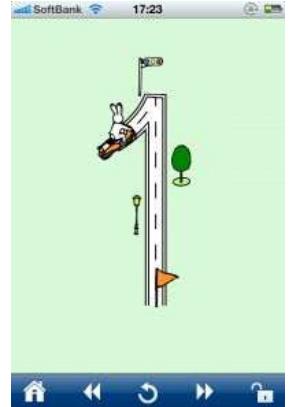
### 2. 活用アプリ 「モジルート」「にほんご ひらがな」「ひらがな なぞり」

### 3. 学習の流れと様子

個別課題学習の時間に、 iPad を活用しながら文字の学習に取り組んでいる。

中学部のある学級では、 数字を書くことを学習している生徒に対して、「モジルート」というアプリを活用し、 iPad 上で数字をなぞる学習に取り組んでいる。

かわいいイラストが大好きな本生徒は、自分がなぞった後を、ウサギなどが走っていくのを楽しそうにみつめている。



また、小学部のある学級では、ひらがなを書く学習をしている 2 名の児童に対して、「にほんご ひらがな」や「ひらがな なぞり」等の文字を画面上でなぞるアプリを活用している。

iPad で書き順を確認した後、画面上でひらがな文字をなぞり、最後にプリント学習で鉛筆を使って書く練習をしている。

iPad 上で書き順を確認してから、書く練習ができるので正しい書き順で書けるようになってきた。また、手指に少し麻痺のある児童は、プリントに書かれた文字を鉛筆でなぞるのは少し苦手そうであったが、iPad 上なら、落ち着いて丁寧になぞることができ、文字を丁寧に書けるようになりつつある。



平成 25 年 7 月 5 日  
西 総 合 支 援 学 校

## 21 世紀型 ICT 教育の創造モデル事業にかかる実践 004

### 1. 教科・単元・教材など

「調理実習 スクランブルエッグをつくろう」

### 2. 活用アプリ 「ロイロノート」

本校では、活動の前に、図書館の書籍で調べたり、インターネットで調べて活動することも多くあるが、これらの資料だけでは十分に理解できず、補助教材・資料を教職員が自作することも多い。例えば、調理実習などで、子どもの実態や課題に応じた調理法（にんじんをたまご切り器で切る等）で調理したり、教職員が手順書を作成して手順書を参考にしながら調理を行っていたりする。

「21 世紀型 ICT 教育の創造モデル事業研究」において、これらの子どもの課題に応じた支援法や手順書などを電子化してメディアセンターに保存し、料理に関する書籍と共に活用できるようにしたいと考えている。藤城小学校の報告書「ロイロノートを使った実践」を拝見させていただき、「ロイロノートを使えば、調理実習の教材が作れるのではないか?」と思い、教材を作り授業で使ってみた。

### 3. 教材づくり

中学部で「調理実習 スクランブルエッグをつくろう」の学習を、同じグループが日にちを変えて何度も学習するということであった。

6月27日 最初の日に iPad の「カメラ」で、調理の各手順を撮影。



6月28日 ロイロノートにて、「スクランブルエッグづくり」の教材動画を作成。

手順通りに写真をつなぎ、それぞれの写真にポイントを録音する。

「書き出し」で、動画を作成する。



#### 4. 学習の流れと様子（7月4日、2度目の調理実習）

- (1) 最初に、調理実習で何を作るのかを口頭で確認する。
- (2) 「前回の様子を写真に撮った。iPadで見られる。みんなで見ましょう。」と説明して、ロイロノートで作成した動画を見せる。

子どもたちは、自分たちが写っている画像を食い入るように見ていた。

- (3) 調理実習を始める。

iPadを近くに置き、「卵を割る」、「かきまぜる」等、手順ごとにロイロノートの再生ボタンを子どもが押し、手順のポイントを確認する。

(ロイロノートは、手順ごと(写真ごと)に自動停止しなかったので、指導者が一時停止ボタンを押した)

各手順でiPadの画面をしつかり眺めながら、自主的に調理にのぞむ子どもの姿が見受けられた。



#### 5. 成果と課題

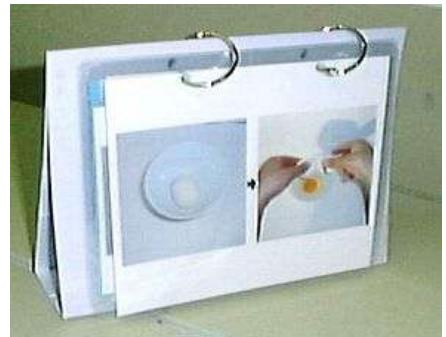
これまでも、右図のような手順書カードを子どもの課題に合わせて作成し、活用してきた。手順書カードの場合、文字を読めない子どもの場合は、各手順ごとに指導者がポイントを口頭で説明する等の支援が必要であった。

ロイロノートを活用して教材を作成したこと、最初に、調理の手順を全体を通して確認し、各手順ごとに再度、ポイントを確認できるようになった。自分たちが写っている映像で確認できること、ポイントを確認がしやすかったのか、手順書カードを活用している時よりも、自主的に調理にのぞむ子どもの姿が見受けられた。

各手順ごとに映像を自動停止させることを考えると、「キーノート」や「らくらく絵本」などのアプリを活用して教材を作成していくことも必要になってくると思われる。

しかし、手順書を自分で作成することが課題になる子どもの場合、「自分専用の手順書（自分なりのレシピノート）」を作成するために、ロイロノートの視覚的・感覚的なわかりやすさが有効ではないかと思った。

今回作成した教材も、メディアセンターに保存し、いつでも見られるようにしたいと考えている。



## 21 世紀型 ICT 教育の創造モデル事業にかかる実践 005

### 1. 教科・単元・教材など

「調理実習 ポテトサラダをつくろう」

### 2. 活用アプリ 「ロイロノート」

7 月に、「ロイロノート」を使って、調理手順を確認しながら調理実習「スクランブルエッグをつくろう」に取り組んだ。

今回は、主指導を行う指導者がロイロノートを使って作成した手順書を、別の指導者がグループの子どもに合わせて「調理をしている手元をアップで撮影した動画」を取り込み、動画を見ながら調理を自分たちで進められるようにした。

### 3. 学習の流れと様子

- (1) 最初に、調理実習で何を作るのかを口頭で確認する。
- (2) ロイロノートで作成した手順書を見せる。
- (3) 調理実習を始める。

- ・各手順ごとにロイロノートを見ながら調理を進める
- ・「じゃがいもをつぶす」作業のところで、「手元をアップで撮影した動画」を見ながら、ビデオと同じようにじゃがいもをくだくように促した。



子どもたちは、 iPad を覗き込んで同じように調理を行っていた。

### 4. 成果と課題

調理している様子を動画で確認できるようにしたことで、動画を真似て自ら調理に取り組む子どもの姿が見受けられた。今後、子どもの課題に合わせて、すべての手順を動画で確認できるように教材（クッキングビデオ）を作成し活用したい。



## 21 世紀型 ICT 教育の創造モデル事業にかかる実践 006

### 1. 教科・単元・教材など

「体を動かそう～ウエスト筋肉番付～」

### 2. 活用アプリ メディアサーバー(NAS)に保存された動画を WebAccess i にて再生

### 3. 学習について

身体をダイナミックに動かすことをねらいとした学習で、メディアサーバーに保存した動画を、各自が i Pad で見ながら、ペットボトルを使ったダンベル体操、踏み台昇降の運動を自発的・自主的に行う学習に取り組んだ。

これまでの学習で、全体での準備体操、ランニング、大縄跳びに加え、巧技台の昇降、ウレタンブロックの飛び石を飛び越えるなど、一人ひとりの児童の目標に応じたサーキット運動を行なってきた。これらの運動には、児童にとって難しい課題も含まれており、一人ひとりに長い指導時間が必要であった。一人の児童に指導者が付きっきりの状態が続き、サーキット運動をしていない児童にとっては待ち時間となっていた。そこで、待ち時間を少なくし、児童一人ひとりの活動量を増やすために、i Pad で指導者の見本を撮影した動画をメディアサーバーに保存し、その動画を各自が i Pad で見ながら簡単な運動に取り組む「ストイックゾーン」、それぞれの児童のねらいに応じた運動を指導者と個別に取り組む「ファイトゾーン」の 2 つに分けて、同時に取り組む活動を設定した。



(1) はじめの挨拶

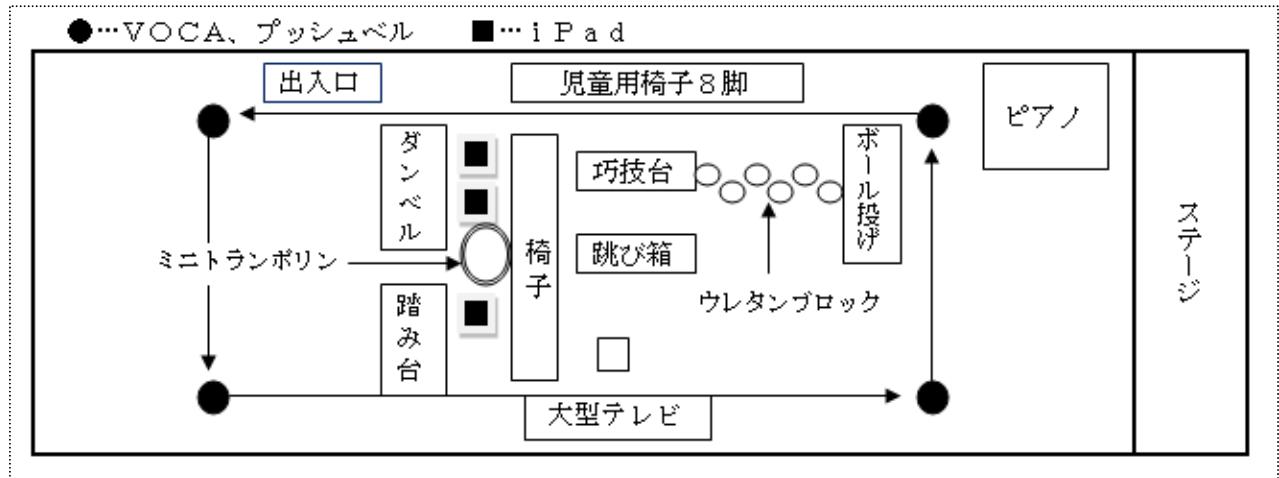
(2) ランニング

(3) 大縄跳び

(4) ストイック & ファイトゾーン

- ・児童が一人で運動に取り組めるように、指導者が手本を示す i Pad を複数用意する。

- ・活動の交代を知らせるために、タイマーをセットした iPad を大型テレビに接続する。
- ・跳びやすいように、縄にラップの芯を通しておく。
- ・縄跳びへの意欲を高めるために、児童が好む指導者によるモデルを録画した動画を手本にする。
- ・目標とする回数を伝え、児童が跳ぶのに合わせて回数を数える。
- ・動画に注目しながら取り組めるように、必要に応じて iPad の動画を指差す。
- ・一人で取り組みやすいように、左右対称の動きの体操を取り入れる。



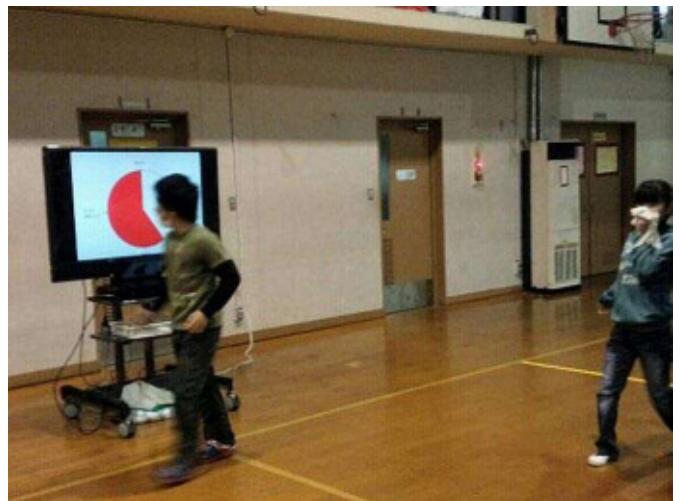
#### 4. 学習の様子

iPad を複数用意し、個々の児童に応じた運動に取り組んだことで、各児童の活動時間を増やすことができた。また、iPad のタイマー画像を大型TVに提示し、ランニングでVOCΑやプッシュベルを押すポイントを加えたことで、一定時間止まらずに走ることができる児童が増えた。

健康維持のために継続的に運動することは大切である。家庭での運動や卒業後の運動維持のことを考えると、より少ない支援で自主的に運動に取り組めることも大切になってくる。

今回の学習では、回を重ねるごとに自ら運動しようとする児童の姿が多く見受けられるようになってきている。また、指導者が目の前でモデルをしても真似をしなかった動きを、iPadを見ながら真似ている児童もいる。この単元が終わる2月頃には、指導者がそばにいなくても、個々の児童がそれぞれに応じた運動プログラムに自発的・自主的に取り組むようになってほしいと願っている。

※ 指導案をPJフォルダに掲載しています)



## 21 世紀型 ICT 教育の創造モデル事業にかかる実践 007

### 1. 教科・単元・教材など

「ちはるの絵本」

### 2. 活用アプリ 「らくらく絵本」

### 3. 学習について

本校には、書字や描画が課題になっている子どもが多く在籍し、様々な機会を設定して書字指導や描画指導に取り組んでいる。21 世紀型 ICT 教育の創造モデル事業に取り組むにあたって、「子ども達が書いたものや描いた作品を図書館の書架に置くとともに、電子化してメディアセンターに保存し、校内のどこでもいつでも誰でも見られるようにしたい」と考えた。図書室のメディアセンター化によって、自分の作ったものを、「どこでも、いつでも、みんなに見てもらえる」ということを励みに、子どもの制作活動がより主体的になることを期待している。

鉛筆で漫画を描くことが大好きな児童に対して、その児童の作品をメディアサーバーに保存するにあたって、「みんなに見てもらいやすいように、色鉛筆で色を塗ろう」と、子どもに指導をした。それを指導者が、「らくらく絵本」というアプリで読み聞かせ絵本として動画化し、メディアサーバーに保存した。

作成した読み聞かせ絵本化した動画は、 iPad でいつでも見られるようにしている。また、それを昼休みに全校放送して大型 TV で多くの人に見てもらった。

- (1) 鉛筆で漫画を描く
- (2) アプリ「らくらく絵本」で、読み聞かせ絵本にした動画を見せ、「色を塗ろう」と誘う
- (3) パステルで色を塗る。
- (4) アプリ「らくらく絵本」で、読み聞かせ絵本にして、メディアサーバーに保存する。
- (5) 昼休みに全校放送する。



#### 4. 学習の様子

本児童は、絵を描くことが好きで休み時間や朝学習の課題が終わった後に、紙にいろいろな絵を描いている。今回、絵本にした漫画は、A4用紙を横にして、8コマ漫画を描いていた。ストーリーのある漫画として、本児童がはじめて描いた漫画である。鉛筆による線画で描いていたので、「色を塗った方がいいよ」と助言したが、色を塗ることは興味を示さなかった。その漫画を、「らくらく絵本」で読み聞かせ絵本にして本児に見せると、じっとiPadの画面を見つめていた。そこで、「みんなに見てもらいたいので、色を塗って」と言うと、柔らかいパステルで自分で色を選びながら1枚ずつに色を塗っていった。出来上がった漫画を、再度、読み聞かせ絵本にしてみせると、ニコニコしながらiPadの画面を見ていた。全校放送した日も、本児の教室へ行くと笑顔で大型TVを見ていた。



## 21 世紀型 ICT 教育の創造モデル事業にかかる実践 008

### 1. 教科・単元・教材など

中学部 広報ユニット お昼休みの生中継放送

### 2. 活用アプリ 「sky p e」

### 3. 学習について

中学部の授業において、広報ユニットという学習活動に取り組んでいる。居住地域や動物園、阪急桂駅などに出かけていき、調べたことや取材してきたことを、校内放送で放送したり、壁新聞を作成して紹介している。

これらの映像をメディアセンター(NAS)に保存し、iPad や学習系パソコンから、いつでも視聴できるようにしている。

今回は、これまでのビデオ映像の放送に加え、桂坂教育後援会より寄付していただいた iPad で、「Sky p e」というアプリを利用してテレビ電話で通話し、その映像を全校に生放送した。(スマートフォンのテザリング機能をWIFI接続で利用)

今回の放送内容は、阪急「河原町駅」で取材してきた。



放送は、「電車の乗り降りでは、乗る人と降りる人、どちらが先ですか？」と、いつものニュース形式でキャスター役の生徒が出題し、正解は取材してきたビデオ映像を流した。



クイズの放送が終わったところで、各教室へ感想を聞きに行き、その様子を iPad のテレビ電話機能を利用して全校に生中継放送した。

テレビに映った教室では、「うつっているー！」と大変、盛り上がっていた。



## 21 世紀型 ICT 教育の創造モデル事業にかかる実践 009

### 1. 教科・単元・教材など

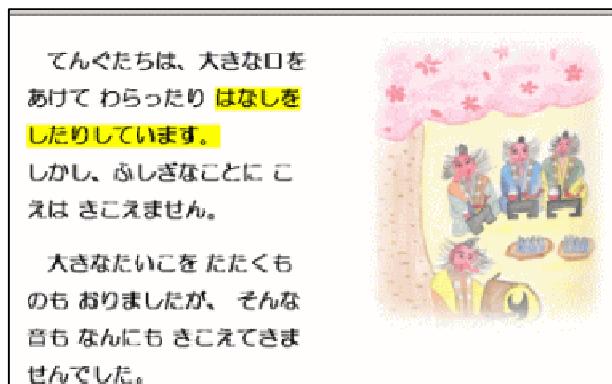
「Daisy 図書の利用」

### 2. 活用アプリ 「VOD (Voice of Daisy)」

### 3. 学習について

DAISY 図書とは、音声の出る電子図書で、文字や絵が見えないまたは見えにくい子どもたち、文字は読めるがどこを読んでいるのかが分かりにくくなる子どもたちに有効である。画面に本の頁が映し出され、文章を読む音声が流れるが、読んでいる箇所の文字がマーカーで示されるため、どこの箇所を読んでいるのかが分かりやすい。たくさんの児童生徒に活用してほしいと思い、図書室の一角にパソコンを置いてそれを利用するコーナーを作った。図書室に「DAISY 図書わくわく文庫」のポスターを貼り、どういう図書が入っているのかが分かるようにした。昼休みの開館時に、電車が好きな生徒に勧めると、マーカーで示された箇所の音声を聞いて自分でも復唱しながら、喜んで読んだ。それを見ていた他の児童も、自分の順番が回ってくると楽しそうに読んだ。

絵によっては怖がって絵本に近づこうとしない生徒が「DAISY 図書わくわく文庫」を使うと、興味深そうに見ることができた。教室のパソコンでも「DAISY 図書わくわく文庫」が見られるので、図書室で何回か個別学習をした後、クラススタディの時間に大型テレビに映して、友達と一緒に見た。その後、その教材を基に、絵本と同じようなワンピースを作って友達に発表したり、感想を伝えたりする学習を展開することもできた。



しかし、パソコンの画面を見ながらマウスでAm i（パソコン用の無料のDaisy再生ソフト）を自分で操作してDaisy図書を読むことは難しかった。そこで、「自分で操作して、いつでも読みたい図書を読めたら楽しいのではないか」と思い、直感的に操作できるiPadのアプリ「VOD」を利用することにした。

最初は、指導者にiPadを操作してもらってDaisy図書を読んでいたが、そのうち、自分からiPadのいろいろな場所をタップするようになった。操作している様子をみていると、どんなDaisy図書がiPadに入っているのか自分で調べているようであった。まだiPadを思うように操作できないようではあるが、読みたい本を探して読もうとする姿が見受けられる。



また、「DAISY図書」は、音声を聞いてそれを真似することができるので、「ゆっくりと音読する」という課題がある生徒が、音声のスピードを落として利用した。音声が止まった後に指導者が一時停止の操作をすると、今聞いたばかりの音声を模倣した。すぐに模倣できなかった時も、どこの箇所を読んだのかがマーカーで分かりやすく示されているので、その箇所の文字を読むことができた。ゆっくり読めた時に指導者が褒めると、早口で読むことが少なくなってきた。

## 21 世紀型 ICT 教育の創造モデル事業にかかる実践 010

### 1. 教科・単元・教材など

「感謝祭で上映するビデオを作ろう！」

### 2. 活用アプリ 「i Movie」

### 3. 学習について

高等部 2 年生では、2 月 4 日（火）に、保護者の方々への「感謝祭」を計画している。クッキーを焼いて保護者に食べていただきたり、ダンスや琴演奏を披露して楽しんでもらう計画である。12 月末には、パーティーの楽しさを実感するために、学年でプチ・パーティーをして楽しみ、1 か月間、グループに分かれて、様々な準備をしてきた。



感謝祭では、「活動を通して自己の役割を担う中で、自分の苦手なことに取り組もうとする生徒達で編成されたユニット」の生徒たちが、その活動の様子を i Pad で撮影し、i Movie というアプリでビデオ編集して、当日、保護者の方に見ていただく予定である。

生徒一人一人に役割を設定し、役割を担う中で自分の苦手を克服して作品を作り、それを最終的に集結させることによって一つの作品に仕上げ、自分の頑張りによって大きな作品ができたという、自分自身の達成感を見出させたい。一人では難しいと思われることでも、仲間と一緒に取り組み、自分の課題を達成していくことで、表現する楽しさを感じる事ができる。その中で、自分の“できる”を活かしての役割を担う意欲と自信を高めて欲しい。その中で、他者との良好な関係を築く基本である『助けられたり、手伝ってもらった時に自分から「ありがとう」という』感謝の言葉が自然と発せられるようにしていきたい。

#### 4. 学習の流れ

1月14日（火）～20日（月） i Padで各グループの様子を撮影



撮影時に、どのような映像をどれぐらいの長さで撮影するかを指導。

1月20日（月）～27日（月） i Movieでビデオ編集



映像を短くしたりつないだりする編集は事前に指導者がしておき、  
生徒が各場面の説明をテロップで挿入していく。最後には一人でできるように。

1月27日（月）～2月3日（月） でき上がったビデオを上映し、説明する練習



指導者も iMovie に挑戦！（BGM 等最終仕上げ）

研究発表会での緊張しながら練習

2月 4日（火） 感謝祭当日

#### 5. 指導者の感想、成果と課題など

## 21 世紀型 ICT 教育の創造モデル事業にかかる実践 011

### 1. グループ研（i Pad の活用）について

本校では、研修を深めたい内容を各教職員に希望調査し、調査結果に応じてグループを編成して自主的に研修を行う「グループ別研修」という取組を行っている。

年度初めに、研修担当者が全教職員対象に取り組みたいテーマの希望調査を行い、それをもとに、1 グループ 3～15 名程度のグループ編成を行う。各グループでは代表者を互選し、研修方針および年間計画を立て、それに沿って研修を進める。

今年度、i Pad の活用方法の研究を希望する教職員が多く、「i Pad の活用方法の研究」グループが作られた。

#### ● グループ別研修について

##### 【目的】

- ・総合支援学校の教員として専門性が高められるよう、一人一人が主体的にテーマを決めて研修を進める。
- ・研修の成果を日々の指導に活かすとともに、全校教職員へ発信し、指導の参考とする。

##### 【日 程】

- 5／13 職員会議にて提案、希望調査票配布  
5／28 グループ最終決定、グループ表・研修計画表枠配布  
6／4 第1回グループ別研修 研修計画立案  
7／23 第2回グループ別研修  
10／8 第3回グループ別研修  
11／26 第4回グループ別研修  
12／17 第5回グループ別研修  
1／21 第6回グループ別研修 校内成果報告会



#### ● i Pad の活用方法の研究グループについて

##### 【希望者数】 23名

##### 【グループ目標】 i Pad に慣れ親しんで活用していく

##### 【研究方法】 4 グループに分かれ、各グループごとに

A グループ：i Pad で使える教材を探す

B グループ：i Pad を使って授業にいかす教材作り

C グループ：コミュニケーション指導における i Pad の活用

D グループ：流通サービス班での i Pad を使った取組

**iPadを使ってコミュニケーション**

□対象生徒  
高等部第2学年PC委員会

□準備物  
①iPad(2台) ②モバイルWiFi(2台)  
③Skypeのインストール

□学習内容  
 ① "Skype"を使った校内クイズゲーム学習  
 教室組と校舎外組の2グループに別れて、校舎外組が校内を散策し、周囲の映像をSkypeで映し出す。その映像を見て、教室組がどこにいるのかを答える学習に取り組んだ。  
 ② "Skype"を使ったグループ別学習  
 ①の学習を活かし、海り浜公園に行きグループ別学習を行った。グループ同士でSkypeを使ってヒントを映し出し、グループ内で相談し、一方のグループが居る場所に辿り着く学習に取り組んだ。(通信が不安定で音声のみの通話になった。)

□良かった点  
 -複数対複数で映像を見ながら会話できるため、相互のコミュニケーションが危険にならずされた。  
 -顔を見ながら会話できるため、安心感を持ってコミュニケーションをとることができた。

□今後に向けて(課題書ききこ)  
 -通信が不安定な場合はあたため事前調査への必要がある。  
 -設定に苦労したため、回答を読み重ねることで、確実に通信ができるようにしていく。今後は帰宅連絡など様々な方面へ広げていきたいと考えている。

**登校できないときに本人と学校をつなぐために**  
～通信アプリを使用した取り組み～

【対象児の情報】  
 ○学年 小学部1年生 実児  
 ○障害名 病弱 肢体不自由  
 ○障害と困難の内容  
 ・インフルエンザ等の感染症が流行する時期には、学校に登校できない日があることが推測される。  
 【活動目的】  
 ○ねらい  
 ・休まざるを得ないときに、iPadを利用して学校の指導者や友だちとつながる。



【活動内容と対象児の変化】  
 ○活動の具体的な内容  
 ①Skypeを利用して、離れたところにいる指導者や友だちとリアルタイムでやりとりをする。  
 ②ほくらの交換日記を利用して、離れたところにいる指導者と日記のやりとりをする。  
 ③iPadのカメラ機能を利用して動画を撮り、原住地校交換で取り組んだ合唱の練習をする。

○対象児の事後の変化  
 ①離れたところにいる指導者に対し、Skypeを利用して、どこにいるかどんなことをしているか話せるようになった。  
 ②日記に楽しかったことや嬉しいことを文章にして表し、日記で先生に報告することができた。  
 ③西経合で歌の練習をするときに、歌と歌っている様子の動画を見聞きしながら行うことで、みんなと一緒に歌っている気持ちを持ちながら、いつもより集中して取り組めた。

【今後の見通し】  
 ①実際に学校を休まざるを得ない時に、本人と指導者や友だちをリアルタイムでつないでいただけると考える。  
 ②実際に学校を休まざる得ない時に、本人と指導者の気持ちをつなげられることがある。  
 ③動画だけでなくSkypeを利用していくことで、リアルタイムで遠隔地校とつながり、より交流学習が進むと考えられる。

**校外販売で適切なコミュニケーションをとるために**  
～ワークスタディでの取り組み～

【対象生徒の情報】  
 ○学年 高等部2年 女子  
 ○障害名 軽度知的障害  
 ○問題点 A: 写真  
 ○障害と困難の内容  
 -簡単な計算であってもとっさのときは計算では難しいときがある。  
 -工程を手順を追って相手に説明するのが苦手である。

【活動目的】  
 ○当初のねらい  
 ①校外販売終での、お金の計算で焦りによるパニックをなくす  
 ②商品を手順を追って強制的に説明できるようにする  
 ③指導者がいない場でも自主的に活動する  
 ○実施期間 平成25年4月～平成26年3月

①商品を順を追って端的に説明できるようにするために  
 製品を手に分かりやすく説明するために、生徒自ら各会員組に取材に行った。そこで撮った写真と、その会員が分けるキーワードを【Keynote】で作成し、客に見せながら説明することにした。  
 ↓  
 【Keynote】を見せながら説明することで、相手にも理屈的に分かりやすく理解してもらえるようになった。また、キーワードを書いておくことで、工程を忘れてもすぐに思い出せることができた。また、相手の頭を見て話せるようになった。

↓  
 工程の写真だけでなく、動画を使用して、さらに分かりやすい説明をすることによって、相手とのコミュニケーションが高れると考える。

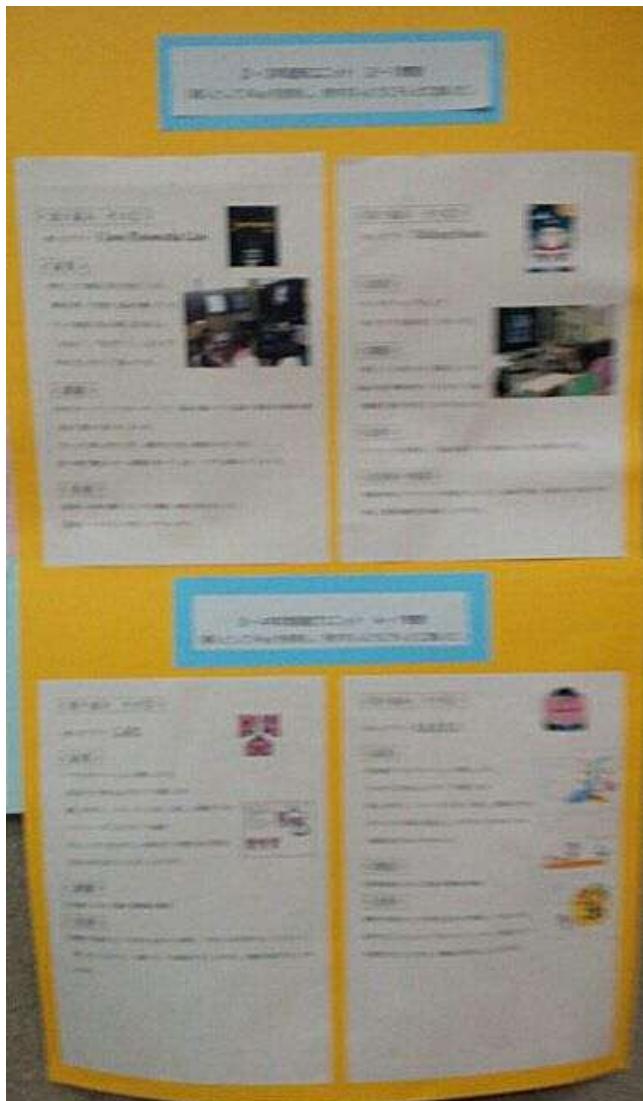
②商品を順を追って端的に説明できるようにするために  
 iPadを使ったレジ機能として、バーコードを読み取って計算できる【RegisterPro】というアプリを使用した。バーコードやアプリへの打ち込みも生活が行った。

↓  
 【RegisterPro】を使用することで、焦りがなくなり、落ち着いて対応することができた。

③指導者がいない場でも自主的に活動するために  
 起っている人に何かを伝えるツールとして、【Skype】を使用した。校外・他城の児童館でのメンテナンスでは、指導者が同行しなくて、以前や作業館等の報告をskypeを使用して学校にいる指導者に伝えることができた。

↓  
 【Skype】を使用することで、分からないことがありますすぐに連絡することができる、指導者がそれに付いていなくても、落ち着いて作業をすることができます。また、指導者なしで校外に行けたことが自信となつた。

↓  
 地域の児童館以外の場所に範囲を広げていき、さらに自信がつくことで、自主性を伸ばすことができると思える。



## 21 世紀型 ICT 教育の創造モデル事業にかかる実践 012

### 1. 教科・単元・教材など

「調理実習 自分でつくろう」

### 2. 活用アプリ 「ロイロノート」

1 学期から取り組んでいる「ロイロノート」で手順を確認しながら調理実習を行う取組の発展形として、同じ中学部の違うグループの生徒を対象として、「ロイロノートで手順を確認しながら一人で調理実習する」ということをねらいとした取組を行った。



### 3. 学習の流れと様子

- (1) 教材となる調理手順は、図書担当がこれまで iPad を授業で利用したことのない授業者にロイロノートの使い方を教え、授業者自身が作成した。
- (2) 各テーブルごとに二人一組になり、生徒それぞれはロイロノートを見ながら一人で調理を進める。
- (3) 生徒が調理手順がわからなくて、次の作業に移れないときは、ロイロノートで確認するように、指導者が動作や言葉がけで指示する。
- (4) 包丁を使う場面など、必要に応じて指導者が手を添えるなどするが、できるだけ一人で調理が進むように見守る。



【ロイロノートで次の調理手順を確認して一人で調理を進める生徒】



【友達と一緒に調理手順を確認しながら調理を進める生徒達】

#### 4. 成果と課題

初めは、「次はどうするの？」という言葉がけが必要であった。回を重ねるうちに、生徒は自分からロイロノートの画面をタップして、次の手順を確認するようになった。

このグループの調理実習では、毎回、異なるメニューで調理しており、各メニューの調理手順はすべて iPad やメディアサーバーに保存してある。

今後、家庭で自分から作りたいメニューを iPad を利用して、いつでも調理できるようにしていきたい。



ロイロノートで確認した後、まな板の前に自分から行って、一人で包丁で切っている生徒

平成 26 年 2 月 7 日  
西 総 合 支 援 学 校

## 21 世紀型 ICT 教育の創造モデル事業にかかる実践 013

### 1. 教科・単元・教材など

個別課題学習や休み時間の自主的学習

### 2. 学習の流れと様子

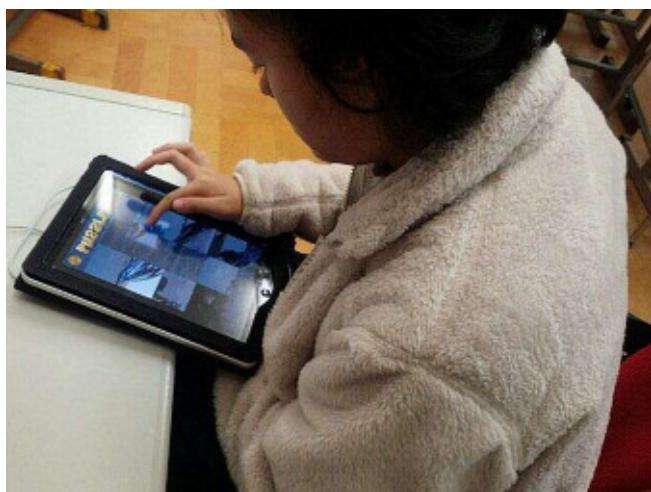
個別課題学習の時間や休み時間に、教室で iPad を利用して学習することが増えてきました。児童生徒の課題に応じて、ひらがな・カタカナ・漢字・文の学習をしていましたり、パズルやマッチングの学習、数の学習、読み聞かせ絵本アプリで本を読んでいたりしています。



【個別課題学習の時間に、図形のマッチングを学習しています】



【昼休みに色のマッチングを学習しています】



【休み時間に「パズル」アプリをしています】



【休み時間に、友達と数を数えるアプリで楽しんでいます】



【個別課題学習の時間に、読み聞かせ  
アプリで本を読んでいます】



【休み時間に、  
漢字の学習をしています】



【個別課題学習の時間に、  
文の学習をしています】



【個別課題学習の時間に、  
カタカナの学習をしています】

## 21 世紀型 ICT 教育の創造モデル事業にかかる実践 014

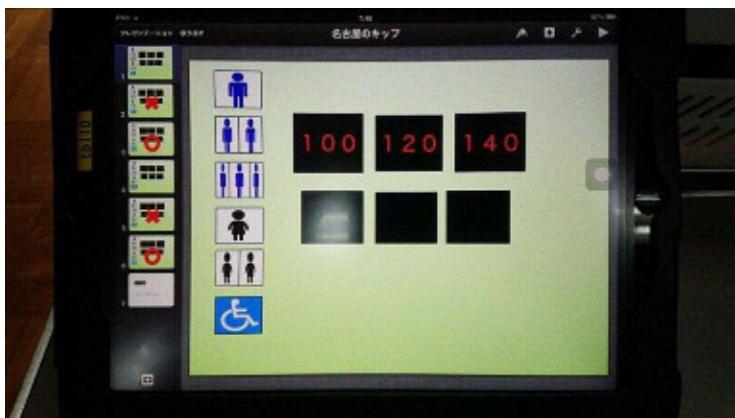
### 1. 教科・単元・教材など

名古屋市営地下鉄の券売機を Keynote でシミュレーション

### 2. 学習の流れと様子

中学部 3 年生は、7 月 2 日（水）～4 日（金）、名古屋方面へ修学旅行へ行きます。2 日目のグループ別行動で、名古屋駅から名古屋城まで地下鉄を使って移動するグループが、名古屋市営地下鉄の券売機で切符を買う練習をしました。

インターネットで、名古屋市営地下鉄の券売機のタッチパネルの写真をダウンロードして、Keynote で iPad の画面に券売機の画面を再現し、本物の券売機と同じ操作感覚で切符が購入できるように工夫しました。



生徒たちは、それぞれに手渡された「切符購入のための手順書」を確認しながら、iPad の画面をタッチしていました。



※実際の修学旅行の様子です。

- ・現地で、iPadで事前学習のおさらいをして、各自で切符を買って、地下鉄に乗りました。



## 21 世紀型 ICT 教育の創造モデル事業にかかる実践 015

### 1. 教科・単元・教材など

「調理実習 自分でつくろう・友だちに伝えよう」

### 2. 活用アプリ 「ロイロノート」・「カメラ」

### 3. 学習の流れと様子

昨年度より、「ロイロノート」で作成した手順書を確認しながら調理実習を行う取組を行ってきた。今では、料理番組を見ながら料理をしているような様子で、i Pad の映像で調理方法を確認しながら、一人で調理ができるようになってきている。



(今回は、i Pad を見ながら、各自が一人で卵焼きを作っています)

最後の反省会でその日に頑張ったことなどを発表していたが、前回から、自分が作った料理を i Pad の「カメラ」アプリで写真に撮り、テレビにつないで紹介するようにした。聞いている人にもイメージがもちやすく作った本人も発表しやすいようで、映像に味は映らないが、写真を見ながら、味について振り返る生徒もいた。



## 21 世紀型 ICT 教育の創造モデル事業にかかる実践 016

### 1. 教科・単元・教材など

高等部 3 年生 コミュニケーション・礼儀ユニット  
「レポーターになって校外学習のレポートをしよう」

### 2. 活用アプリ 「カメラ」による動画撮影

### 3. 学習の流れと様子

本ユニットは、コミュニケーション、社会的マナー、発音発語に課題を持つ生徒たちで編成されたユニットである。生徒たちは各自、各場所で、班長を任せられたり、生徒会で活動をするなど、積極性があり、行動力がある。だが、挨拶や姿勢など、基本的なことをおろそかにしてしまうことがあるため、それらはメンバー全員の目標であり、これまでのユニットの活動でも、正しい立ち姿勢や座り姿勢を意識し、挨拶を大きな声ではっきりと言うなど、卒業後の進路につながる取り組みを行ってきた。全員で取り組むことで、お互いを注意したり褒めあうことができ、意識を高めることができた。

そこで今回は、ユニットメンバーが校外学習の感想をレポートした姿をビデオで撮影し、写真と合成してレポーターになりきるという課題に取り組む。実際に行った場所で、自分が体験したことをレポートすることで、レポーターになりきり、はっきりと発語できると考える。文章をただ読むだけでなく、見る人が状況や感想をイメージしやすいように伝える、聞き取りやすく話す、ということを意識して取り組んでほしい。そのために、それぞれがレポートする姿をお互いに iPad で撮影し、撮影後すぐにその場で確認し自分で課題を見つけて、「はっきり・ゆっくり・わかりやすく伝えられる」ように指導していきたい。

- (1) 挨拶の後、生徒の顔写真入り出席簿で、代表が出席をとる。
- (2) 本時の活動を指導者から聞く
- (3) 前回、撮影した作品を見る。

前回よりよい作品にするために、それぞれの目標を考える。



(4) グループ別で読み練習。

友達に i Pad で撮影してもらい、その映像で自分で確認しながら練習する。



(5) 本番の撮影。一人ずつビデオ撮影する。



平成 26 年 11 月 07 日

西 総 合 支 援 学 校

## 21 世紀型 ICT 教育の創造モデル事業にかかる実践 017

### 1. 教科・単元・教材など

「読み聞かせ絵本の制作とお昼の放送」

### 2. 活用アプリ

「らくらく絵本」

「iXylophone Lite」

### 3. 学習について

本校には、書籍には興味を持っているが興味の幅が狭い子どもも、見せ方（聴かせ方）に配慮を要する子どもも、図書館に移動してくることが難しい子ども等が在籍している。書籍への興味を広げるため、図書支援員による読み聞かせ、図書委員によるパネルシアター、書籍とともに手づくり教材の提示、教員や図書支援員によって録音・録画された読み聞かせ映像のお昼の全校放送等に取り組んでいる。

「21 世紀型 ICT 教育の創造モデル事業」の取組を進める中で、多くの教職員が i Pad を積極的に活用するようになってきており、読書が大好きな子どもがたくさん在籍している小学部 5 年生では、お昼に全校放送している読み聞かせ絵本を指導者と子どもたちが制作するようになってきた。

### 4. 学習の流れ

(1) 事前に「らくらく絵本」で i Pad に取り込んでおいた絵本を大型 TV に映し、指導者がページに合わせて絵本の内容を最後のページまで読んでいく。（ページ送りは児童にさせる）



(2) 「らくらく絵本」で各ページを表示し、文字の読める児童やセリフを覚えて言える児童にそのページの内容を読み上げさせ、「らくらく絵本」に録音する。



(3) 効果音が必要な絵本を選んでおき、本を読み上げない児童に iPad を操作させ、効果音を「らくらく絵本」に録音する。

今回は、エレベーターがお話に出てくる内容なので、エレベーターが各階に到着したときの効果音「チーン」を、「iXylophone Lite」を操作して鳴らす。



(4) 連絡や報告することが課題になっている児童に、読み聞かせ絵本を制作した iPad 番号を図書担当の指導者に伝え、お昼に放送してもらうように頼ませる。

\* お昼の全校放送の様子



平成 26 年 11 月 07 日

西 総 合 支 援 学 校

## 21 世紀型 ICT 教育の創造モデル事業にかかる実践 018

### 1. 教科・単元・教材など

「贈呈式でのお礼の言葉と広報ユニットによる取材」

### 2. 活用アプリ

ビデオカメラ機能

「DropTalk」

### 3. 学習について

本校では、毎年、桂坂教育後援会からさまざまな物品を寄贈していただいている。今年度は、iPad を車いす等に固定するフレキシブルアームや棒スイッチ、iPad タッチャー（スイッチを ON することで iPad の画面をタッチしたのと同じ動作をさせるスイッチ）、Apple TV 等を寄贈していただいた。



【フレキシブルアームと箱棒スイッチ】



【iPad タッチャー】

芝生まつり・福祉機器展のオープニングに先立ち贈呈式を開催し、車いすを利用している小学部児童が、これらを利用して車いすに固定された iPad や棒スイッチを使い、DropTalk というアプリを操作して、お礼の言葉を伝えた。

また、中学部広報ユニットの生徒が iPad で取材し、Apple TV を使って取材画面を大型 TV に映した。この取材映像は、お昼の全校放送で放映される予定になっている。



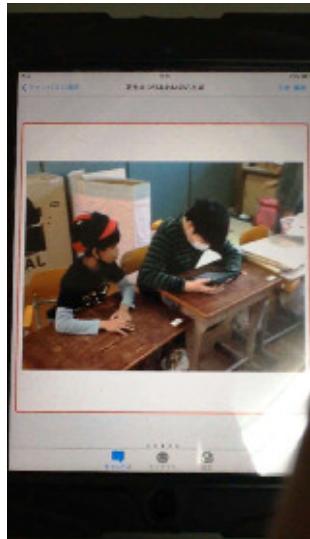
#### 4. 学習の流れ

(1) 贈呈式のお礼の言葉の場面で、小学部児童がDropTalkを操作して、お礼の言葉を伝えている。

DropTalkには、5・6年生の友達によるお礼の言葉が録音されており、棒スイッチを倒すと、1フレーズごとに再生される。



DropTalk の画面には、話をしている友達の写真が表示されています。



(2) その様子を中学広報ユニットの生徒が iPad で撮影している様子。



